

2004.9.05 司祭のてがみ No. 18

行橋カトリック教会・豊津巡回教会 主任司祭：ミカエル山元眞

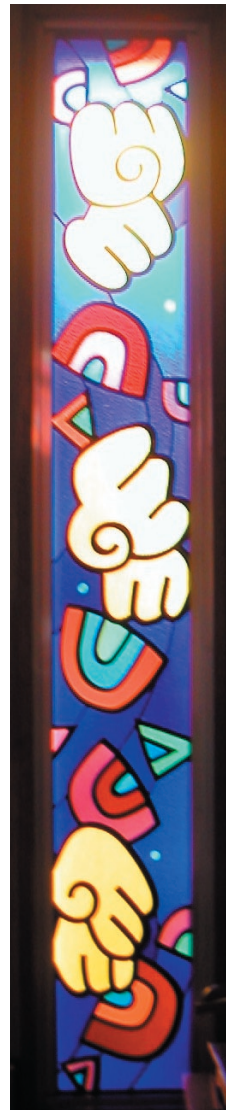
ステンドグラスと椅子…

昨年夏、わたしたちの教会に木製の長椅子をいただきました。無名の方からの寄付でした。突然の贈り物に驚きながらも、感謝しました。真のボランティア精神に触れ、その歓びはわたしたちの心の底にしっかりと染み込みました。行橋教会の元気の基は、そこにあるのではないかと思います。



以前、信者の方から献金をいただきました。創立50周年を期に、できればステンドグラスを聖堂の窓に入れてほしい…と。知人のデザイナーに相談したら、行橋（長木）出身の画家で、バルセロナ（スペイン）で20年来活動しておられる九十九（つくも）伸一さんを紹介してくれました。折よく一時帰国されるということで、昨年の12月にお会いすることができました。福岡市内の幼稚園に九十九さんの壁画が完成し、その披露のために帰国されたのです。多忙の合間をぬって、聖堂を見ていただいてから、修復のことも含めてご意見を伺いました。初めてお会いしたのに意気投合。その時から、九十九さんは聖堂のステンドグラスのイメージを温め始めま

した。今年の4月（2004年）、下関での仕事のために帰国された時、原画を持ってきていただき、ステンドグラスを制作する松尾雄一さん（福岡県春日市在住）と一緒に会いました。聖堂内でガラスの色を決めました。



聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな。
天の父よ、あなたの愛といつくしみが
天地にあふれている。
あなたをたたえて歌う天使たちの歌に
わたしたちも声を合わせ、
いっしょにたたえて歌います。

後で知人から聞いた話ですが、松尾さんはパリミッション会の北九州本部（八王寺）のチャペルのステンドグラスを制作されたそうです。デザインしたフランス人の神父様にその技術を絶賛され、その後、埼玉の所沢教会、静岡の三島教会のステンドグラスも手がけら

れました。九十九さんは松尾さん以外の方とは仕事をされないそうです。9月3日（金）に取り付け工事を行いました。松尾さんの友人二人もボランティアで取り付けに協力してくれました。このように、いろんな方の協力でステンドグラスが完成したわけです。世界でここだけにある…。



聖堂の後ろ、上部のステンドグラス。東側のため、ここから朝陽が差し込む。天使が舞い降りてくる。聖霊とも解釈できる。尖頭部の三つの輪は三位一体の神を表す？ 作者によれば、解釈は自由だそうです。

「ステンドグラス」というもの

ステンドグラスが入るということを聞かれて、みなさん、期待しておられたと思います。どんなものが入るのだろうか？と不安をもたれた方もおられたと思います。教会委員会でまかせていただいていたはありましたが…。わたしはステンドグラスそのものについては心配はしていませんでしたが、信者の方がどのように感じられるかは不安でした。

おそらく多くの方が、聖画（イエスやマリアなど、聖人の絵みたいなデザイン）のようなかつての西欧、ヨーロッパ的なものを想像

し、期待もしておられたと思います。そのような方にとっては、このステンドグラスは奇抜でじっくりこず、驚かれたのではないかと思います。わたしたちが一般的に想像する「教会のステンドグラス」は11、12世紀に一応完成をみたといわれています。当時は文盲の人々も多く、聖書についても話しを聞くだけで、自分で読むことはできませんでした。そこで、宗教教育の一つの方法として絵画やステンドグラスが用いられるようになったのです。他の教会芸術にしても同じことがいえると思いますが、教会（とくに典礼儀式）で用いられるものは「本物」でなければならず、その時々で最高のものが使われてきました（時として、それがつまずきにもなりましたが…）。ちなみに、このステンドグラスはフランス製の（一部はドイツ製の）吹きガラスで、同じ色のように見えても、同じものは一枚もありません。まさに、世界でここにだけあるステンドグラスです。もちろん、デザインも…。これから多くの方が見学に来られるでしょう。それが、神さまとの出会いのきっかけになれば、それ以上に幸いなことはないと思っています。

九十九伸一さんの略歴

詳しくは掲示板を●1955年行橋市生まれ●1980年九州産業大学芸術学部美術学科大学院修了、ミラノ（イタリア）に渡欧●1986年バルセロナ（スペイン）にアトリエを移す●2000年の大聖年の時、バルセロナの教会の修復の仕事をされました。11月上旬から、西日本工業大学の特別講義を行います。クリスマスの頃まで滞在されると聞いています。創立記念日（11月27日）あたりに、みなさんに紹介してお話いただければ、と期待しています。松尾さんともども…。